

SANYADUKA

三夜塚遺跡 V

—地方特定道路整備工事（村道北6号線）に伴う記録保存—

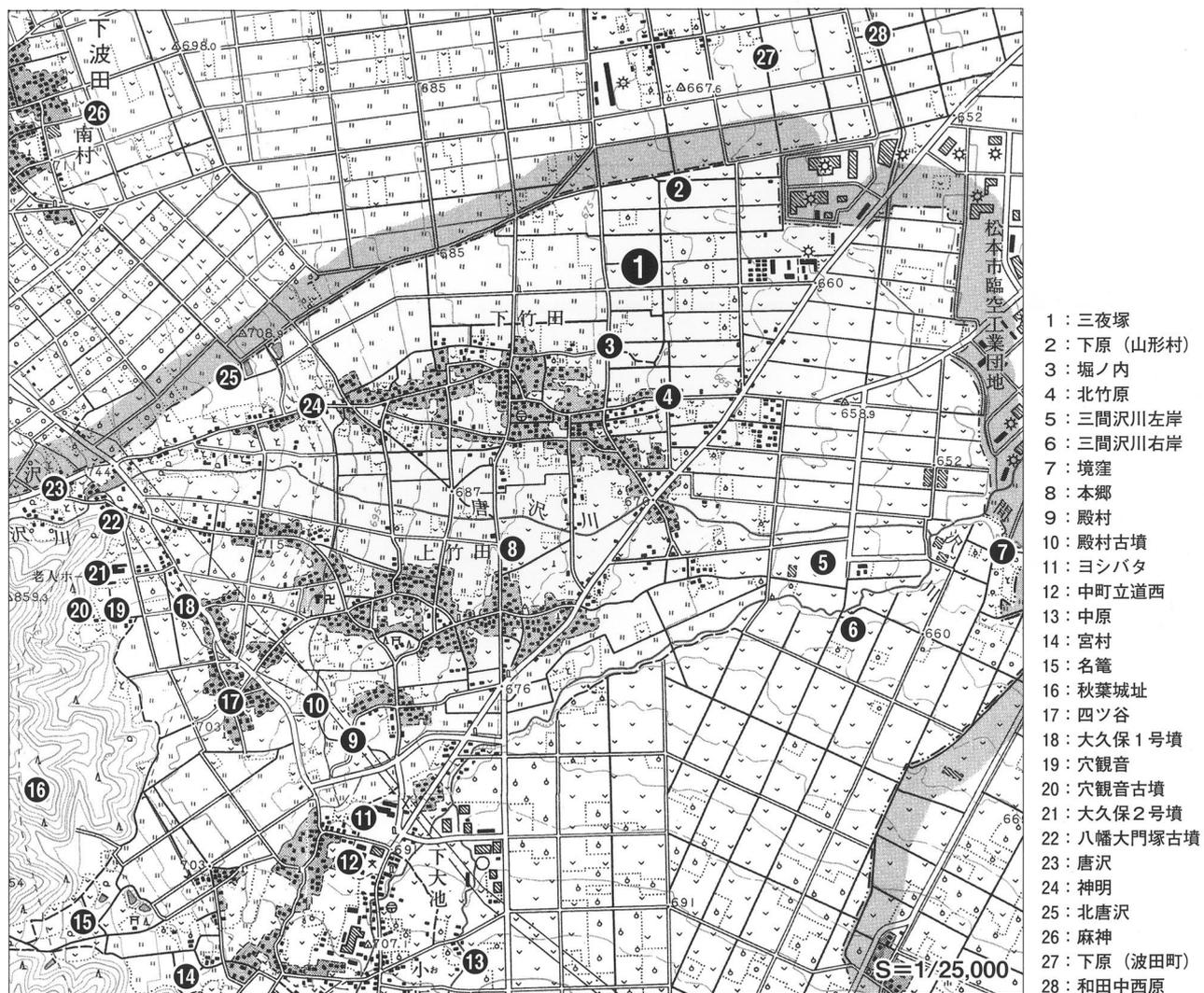


2010.3

長野県山形村教育委員会

例 言

- 1 本書は、平成20年8月25日～9月17日の期間実施された、長野県東筑摩郡山形村6402番地4他に存在する三夜塚遺跡の緊急発掘調査報告書である。
- 2 本調査は、山形村による地方特定道路整備工事（村道北6号線）に伴う緊急発掘調査であり、山形村教育委員会が発掘調査を実施、本書の作成を行ったものである。
- 3 本書の編集・執筆は、和田和哉が行った。
- 4 本調査で用いた方位記号は、すべて真北である。また用いた土色は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版 標準土色帖』である。
- 5 遺物の写真撮影を宮嶋洋一氏に依頼した。また石器の実測・トレースを株式会社シン技術コンサルに、自然科学分析をパリノ・サーヴェイ株式会社に委託して行った。
- 6 本調査で得られた出土遺物及び調査の記録類（図面・写真等）は、山形村教育委員会が保管し、出土遺物は山形村ふるさと伝承館（〒390-1301 長野県東筑摩郡山形村3866 TEL0263-98-3938）に、調査の記録類は山形村農業者トレーニングセンター（〒390-1301 長野県東筑摩郡山形村2040-1 TEL0263-98-3155）に収蔵されている。



第1図 三夜塚遺跡の位置と周辺の遺跡

I 調査の経緯

1. 調査に至る経過

三夜塚遺跡は山形村の北東端、下竹田区竹田原地籍に所在する。この地籍では土器や石器が採取されており、地域住民を初めとして多くの人を知る遺跡である。発掘調査された面積は少ないものの、広大な遺跡範囲、多数採取された遺物から、松本平最大の縄文中期遺跡とも言われた。

一帯は広大な畑作地帯であるが、南東側には松本市臨空工業団地が展開しており、朝夕は特に通勤車両の通過が激しい。畑の中を通る細い道路をせわしく通過していく車両の事故が頻発しており、村では順次道路改良を行って来ていた。平成19年には村道北6号線の拡幅が計画されたが、その年に当遺跡で行っていた灌漑用配水管更新工事に伴う発掘調査状況から、拡幅区間の南側には遺構・遺物の存在が確認された。そこで工事を担当する村農林建設課と村教育委員会で協議を行い、平成20年度に記録作成のための発掘調査を実施するとしたものである。現場での発掘調査は平成20年8月25日から1ヶ月弱の期間行われ、終了後出土遺物の整理作業に着手した。なお他遺跡の整理作業を並行して行っており、同年度内での報告書刊行が厳しい状況であったため、平成21年度に本報告書の刊行となった。

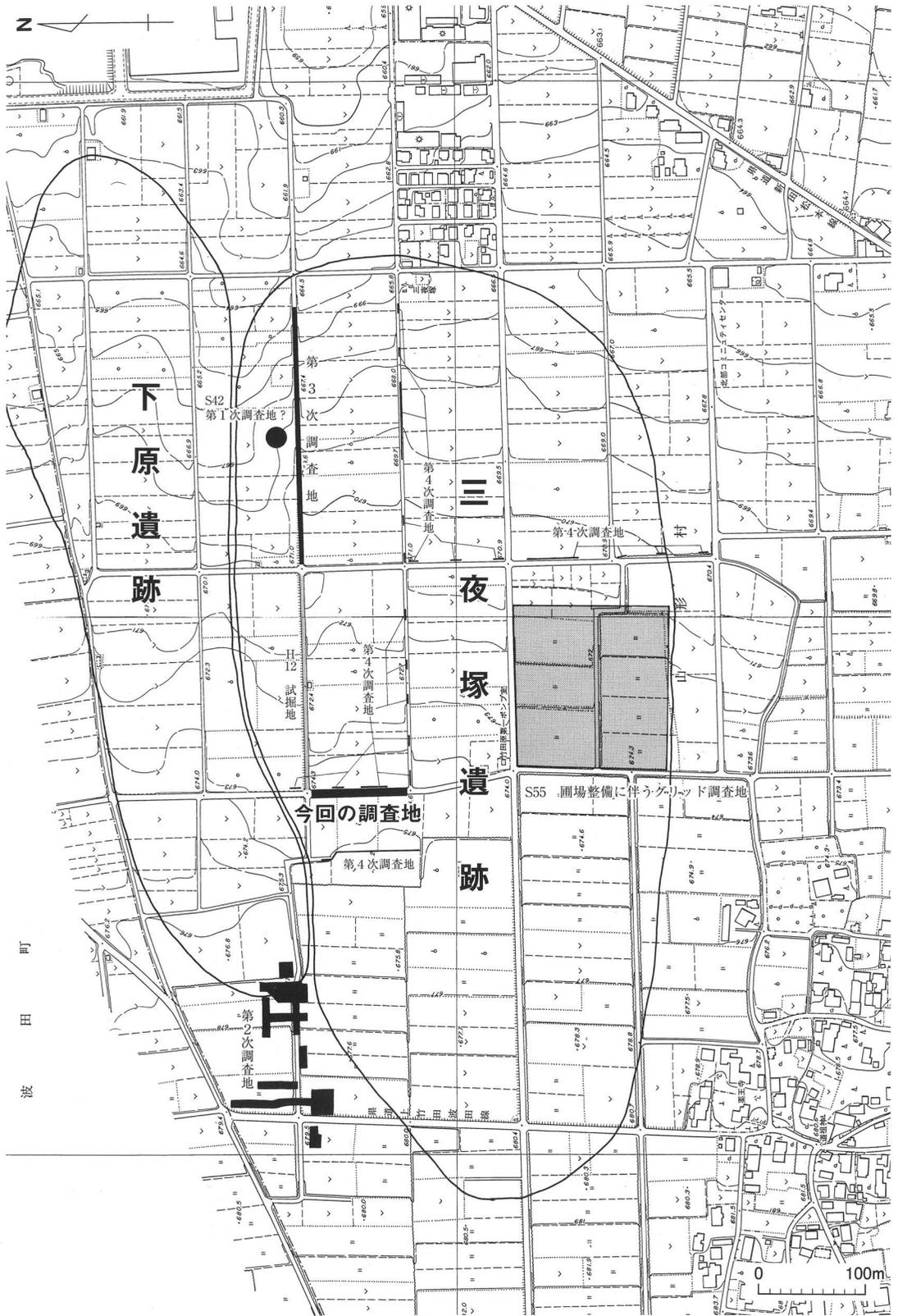
2. 調査体制

調査責任者	山形村教育長 本庄利昭
調査担当者	山形村教育委員会社会教育係 主査 和田和哉
協力者	大金鞆夫、中川長一、村井敏子、山中久代、渡辺喜美治（以上社団法人松本地域シルバー人材センターより派遣）、青木智恵子、直井由加理
事務局	山形村教育委員会社会教育係 教育次長補佐兼社会教育係長 小口賢一

II 遺跡の位置と環境

三夜塚遺跡（第1図1）は、西山麓から流れ出る唐沢川の扇状地扇端に位置し、標高は670m前後、1000分の25程度の比較的緩やかに東へ傾斜した場所にある。河川から離れた水利に乏しい場所であり、戦前までは樹木の茂る平地林になっていたと言われ、開墾後も畑作地帯であった。集落が立地するには不向きな場所と見られやすいが、過去に水が流れていたと思われるわずかな窪地が西側の山へと延びているのが確認でき、唐沢川の河川跡と考えられる。縄文時代にはここに水が流れ、集落が展開したと思われる。なお松本市三間沢川左岸遺跡（臨空工業団地内）の発掘調査で延々と検出された溝址（水路）の水源は、堆積した土砂の分析から唐沢川に求められるとされることを考慮すると、平安時代までは上記の場所に水が流れていたと推測される。市村境（株ヤンマー農機長野営業所敷地）で遺跡の確認調査を行った際に、時期不詳の溝址を検出したこともこれにつながるかもしれない。

この遺跡の北側には下原遺跡（2）が隣接し、当遺跡と同じ縄文中期の土器を多出する。上記の河川の左岸に下原遺跡、右岸に三夜塚遺跡が立地することになり、出土する土器の時期が重なるので同時に両岸で活動があったと推測される。加えて南側には堀ノ内遺跡（3）と北竹原遺跡（4）があり、こちらも中期の土器が拾われている。またこの周辺には中期の遺跡が数多く知られ、発掘調査された殿村遺跡（9）や波田町麻神遺跡（26）は有名である。中期より古い時期は、町村境の唐沢遺跡（23）で前期中葉～後葉の竪穴式住居址4軒、名籠遺跡（15）で早期押型土器片や同時期の土坑、前期末～中期初頭の集落址、中町立道西遺跡（12）で前期後葉の竪穴式住居址1基、などの調査例があるものの量は少ない。また当遺跡では局部磨製



第2図 調査位置図

石斧が採取されており、縄文時代開始期前後にまでさかのぼり得るものの、これが唯一の資料である。後期以降は前期以前に増して事例に乏しく、名籠遺跡（15）で後晩期の集石遺構、波田町麻神遺跡（26）で後期前半期の事例を数えるにすぎない。

水源に乏しい当地周辺では、水稻可耕地が限られるため、弥生時代以降の遺跡は少ない。弥生中期前半の集落址が市村境の境窪遺跡（7）で見つがっているが、それ以外はヨシバタ遺跡（11）や唐沢遺跡（23）で土器が数点見つがっているに留まる。上竹田区四ツ谷地籍には大久保古墳群と呼ばれる横穴式石室を持つ小古墳が5基（10・18・20・21・22）あったことが知られているが、古墳時代の遺跡は発見されていない。続く奈良時代の遺跡もないが、平安時代になると散見でき、殿村遺跡（9）で13軒、中町立道西遺跡（12）で2軒、境窪遺跡（7）で3軒の竪穴式住居址が見つがっている。

中世については名籠遺跡（15）で鎌倉期の集落、室町期以降の墓域、中町立道西遺跡（12）で中世後半期の遺構・遺物が見つがっている。秋葉城址（16）等の城郭遺構も知られるところであるが、文献史料は皆無に等しく、詳細にうかがうことはできない。

Ⅲ 調査の結果

1. 調査の概要

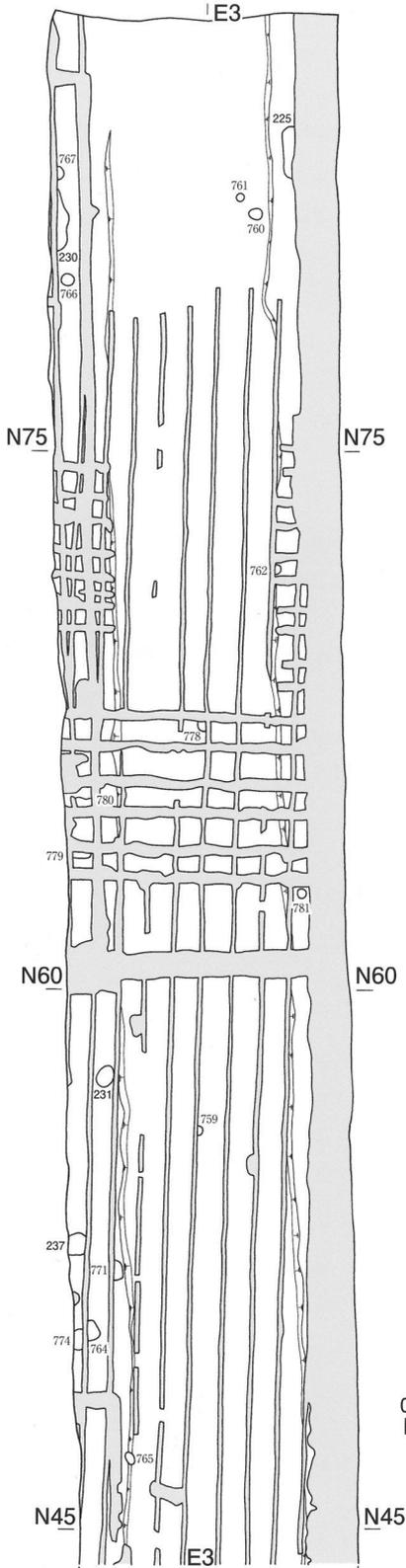
今回の道路改良は、車両のすれ違いを安全にできる様にするための拡幅を目的としたが、現道も路盤から作り直す計画であった。現道を開道した際には発掘調査を実施していないため、全幅を発掘調査対象とした。当遺跡では今までに4回の発掘調査（第2図）を実施しており、今回が5回目（第V次調査）となる。調査地一帯の遺構面までの層序は単純で、30～50cm程度の耕作土を剥ぐとすぐ地山のローム層が現れ、遺構検出面はこのローム層上面となるのが通常である。現道の路盤は予測以上にしっかりしたもので、地山を削り込んで深くまで川原石を入れてあったため、遺構の上部は削平されており、拡幅される範囲と現道の範囲では遺構検出面に20cm程度の段差がついた。調査区の北側には、道路ができる前に長芋が栽培された掘削溝が格子目状に存在し、灌漑用水の配水管も入れられていた。削平や攪乱の状況は予測以上ではあったが、681.5㎡の調査区から土坑38基、ピット34基、溝址1条を検出した。なお遺物はコンテナ1箱分と少ない

現場での調査では、耕作土と現道の路盤を構成する土砂の除去には重機を用い、遺構検出・掘り下げ作業は人力にて行った。調査区は国土座標（世界測地系）に沿って任意のグリッドを設定し、遺構及び遺物出土状況等の測量記録を行った。任意の座標原点（NS0、EW0）は、X=20895.000、Y=-55446.000で、この座標原点からの距離に方位記号を冠し、N3、N6…、E3、E6…と座標値を呼称した。またこれに沿った1×1mグリッドを設定しており、座標原点からの最小数値をもってグリッド名を呼称した。当遺跡では今までに発掘調査を行っているので、遺構番号は第IV次調査の続き番号を付していった。写真撮影はカラーリバーサルフィルムと白黒ネガフィルムを使用し、35mmカメラで撮影した。なお出土した遺物への注記は、村遺跡地図に付されている三夜塚遺跡の番号「28」→第V次調査の「V」→遺構番号・グリッド名→取り上げNo.の順番で手書きにより記した。

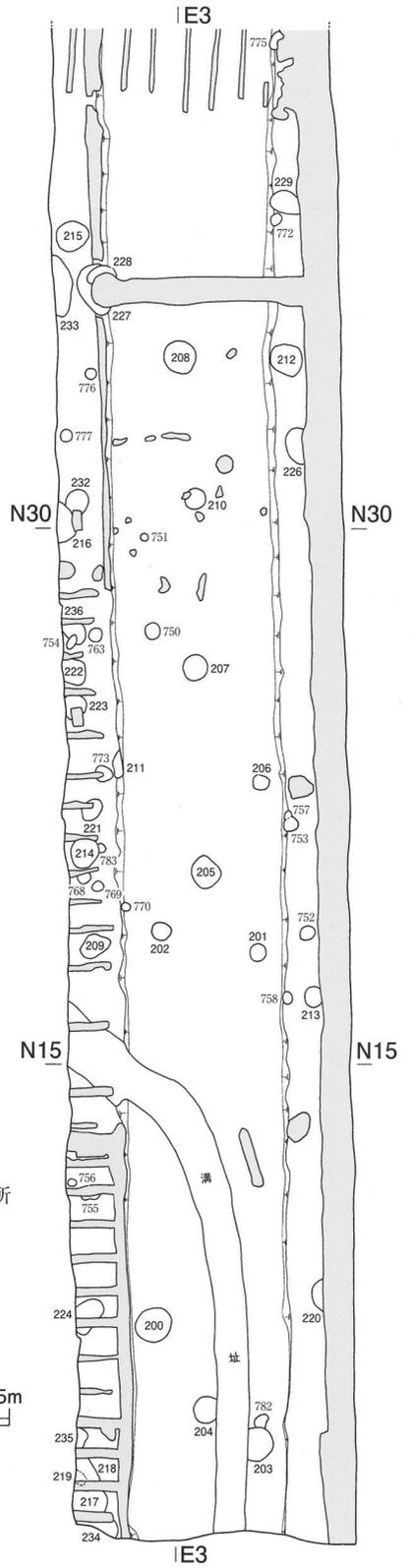
2. 検出された遺構と出土した遺物

今回の調査で遺構から出土した土器は前期末～中期初頭のものが主であるが、量は少なく小破片ばかりである。また石器も少ない。いずれも特記するまでもないと思われ、各々記述するスペースもないので、遺物実測図（第6図、第7図）と観察表（第4表、第5表）を提示するに留める。遺構は土坑とピットが検出され、加えて近代の溝址も検出されている。

調査区北半部



調査区南半部



ゴシック体 : SK
明朝体 : SP

網掛範囲は攪乱箇所

第3図 遺構配置図

(1) 土坑

土坑は38基検出された。直径50cm以上の穴を土坑として扱ったがピットとの境界は明瞭でなく、厳密なものではない。調査区の南半部で多く検出され、北半部にはあまり存在しない。遺物を出土した遺構は少なく、また顕著な遺物も出土しなかったが、時期の判明する土器片は縄文前期末～中期初頭のものに限られ、多くの土坑はこの期に帰属すると思われる。すべてについて記述しないが、ほとんどの土坑の平面図と断面図を図示し、また第2表にデータを掲示した。

形態的に特徴的なものとしては、平面系が円形を呈し、内部が袋状に掘り込まれるもので、SK-200・203・207・208・220・228等があげられる。深さは検出面からの数値であるが30～50cmのものが多く、SK-228は150cmもある。これらは屋外貯蔵穴と言われているものである。また上部がかなり削平されているであろうことを考えれば、SK-204・205・215等もこれらに加えることができると思われる。

SK-226からは、顕著な使用痕が認められないハンドボールを潰した程度の大きさの砂岩礫と磨石が、底面近くから出土している。SK-231からは漬物石の様な扁平な花崗岩礫（約10kg）が、底面から浮いて出土した。大きめな礫が出土しているものの共通性はなく、とりわけ特徴を見出すことはできない。

(2) ピット

ピットは34基検出された。こちらも調査区の南半部に多く、北半部に少ない。SP-764から縄文中期末の土器片が出土している以外、時期の判明する土器は見られず、帰属時期は決め難い。浅いものは近代の耕作に伴うものの可能性があるが、覆土の状況（ローム層土の混合具合や土の締まり具合）を見てピットとして扱った。柱穴の様に規則的に並ぶものはなく、また特徴的なものもない。それぞれについて記述してもあまり意味はないと思われるので、第3表にデータを掲示するに留めた。

(3) 溝址

調査区の南側にて検出した。削平されていないところで幅1.5m、深さ40cmを測る。覆土中から瓦片や銅銭（寛永通宝）が出土したため、近世以降の用水路ではないかと思われたが、溝底に砂礫の堆積がなく、水が流れた状況を示さないことから、当初用途は判断できないでいた。

しかし隣接地に畑を持つ村上登志水氏より、明治17年に開田計画が進められていたとの御教示を頂いた。この計画は、隣の波田町に設けられた波多堰の末流を引き込み、総延長約2.2kmの堰を新設して竹田地区の25町歩を開田するものであった。計画を進めた代表者は、波田町側の同意は取り付けていたが、水代の支払いで地元住民の合意を得ることができず、結局実現に至らなかった。しかし村上氏の調査によると、堰は部分的に掘削が開始されていたとのことで、今回見つかった溝址は、この堰の路線及び堰が掘削された区間に合致する。溝底に砂礫の堆積がなかったのは通水しなかったことを裏付ける。近代の遺構ではあるが、水不足に悩まされ努力した先人の労を偲ぶ発見であった。

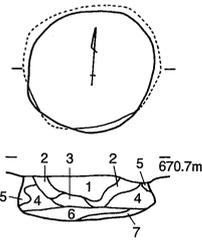
3. 自然化学分析

ここでは調査で出土した有機質遺物について行った科学分析結果を扱う。炭化材の樹種同定と年代測定である。分析はパリノ・サーヴェイ株式会社に委託して行った。以下分析結果を記載するが、紙幅の都合上、同社より提出された報告書の要点を当方にて抜粋及び編集して掲載する。

(1) 炭化材樹種同定

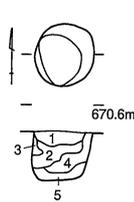
試料は、貯蔵穴と考えられる土坑4基から出土した炭化材14点（試料No.1～14）である。試料を自然乾燥

SK-200



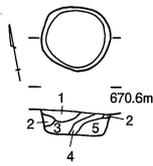
- 1: 10YR3/2 黒褐 締まり弱、粘性やや有 1~2mmローム粒・炭化材(最大15mm角)少量、3~5mmロームブロック1%含む
- 2: 10YR2/2 黒褐 締まりやや有、粘性弱 1mmローム粒少量含む
- 3: 10YR3/3 暗褐 締まり弱、粘性やや有 1~2mmローム粒中量、5~25mmロームブロック5%含む
- 4: 10YR3/2 黒褐 締まり弱、粘性やや有 1~2mmローム粒少量、3~5mmロームブロック1%含む
- 5: 10YR4/4 褐 ブロック状のローム層土
- 6: 7.5YR2/3 極暗褐 締まりやや有、粘性弱 焼土粒・炭粒中量含む
- 7: 10YR3/3 暗褐 締まり強、粘性やや有 1mmローム粒少量含む

SK-201



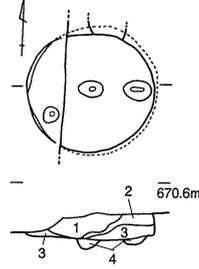
- 1: 10YR3/3 暗褐 締まり弱、粘性やや有 1mmローム粒少量含む
- 2: 10YR3/2 黒褐 締まり弱、粘性やや有 1mmローム粒・炭粒少量、3~5mmロームブロック2%含む
- 3: 10YR4/3 におい黄褐 ブロック状のローム層土
- 4: 10YR3/2 黒褐 締まり弱、粘性やや有 1~2mmローム粒中量含む
- 5: 10YR2/2 黒褐 締まり・粘性やや有 1mmローム粒少量含む

SK-202



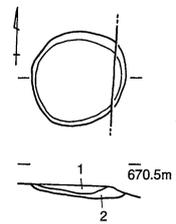
- 1: 10YR3/3 暗褐 締まり・粘性やや有 1mmローム粒・炭粒少量含む
- 2: 10YR4/4 褐 ローム層土のブロック
- 3: 10YR3/2 黒褐 締まり弱、粘性やや有 1mmローム粒・炭粒少量含む
- 4: 10YR3/3 暗褐 締まり弱、粘性やや有 1~2mmローム粒中量、5~30mmロームブロック7%含む
- 5: 10YR3/2 黒褐 締まり弱、粘性有 1mmローム粒少量含む

SK-203



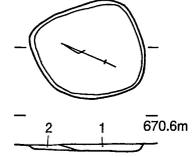
- 1: 10YR2/2 黒褐 締まり有、粘性やや有 1~2mmローム粒少量、炭化材(最大1cm角)少量、3~5mmロームブロック2%含む
- 2: 10YR3/1 黒褐 締まり・粘性やや有 1mmローム粒少量含む
- 3: 10YR2/2 黒褐 締まり弱、粘性やや有 1~2mmローム粒少量、3~5mmロームブロック1%含む
- 4: 10YR3/3 暗褐 締まり・粘性弱 1mmローム粒少量含む

SK-204



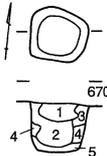
- 1: 10YR2/2 黒褐 締まり・粘性弱 1mmローム粒・炭粒少量含む
- 2: 10YR3/3 暗褐 締まり強、粘性やや有 1~2mmローム粒少量含む

SK-205



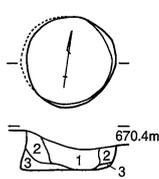
- 1: 10YR4/2 灰黄褐 締まり・粘性有 1~2mmローム粒・炭粒少量含む
- 2: 10YR3/2 黒褐 締まり・粘性有 1mmローム粒少量含む

SK-206



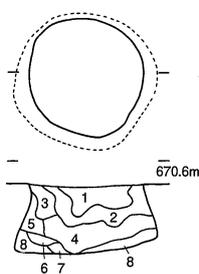
- 1: 10YR3/2 黒褐 締まり弱、粘性やや有 1~2mmローム粒少量含む
- 2: 10YR2/2 黒褐 締まり弱、粘性やや有 1~2mmローム粒少量、3~10mmロームブロック2%含む
- 3: 10YR4/3 におい黄褐 締まり・粘性やや有 1~2mmローム粒中量含む
- 4: 10YR2/2 黒褐 締まり・粘性やや有 1mmローム粒少量含む
- 5: 10YR3/3 暗褐 締まり弱、粘性やや有 1~2mmローム粒少量含む

SK-207



- 1: 10YR2/2 黒褐 締まり弱、粘性やや有 1~2mmローム粒少量、炭化材(最大20mm角)多量、3~5mmロームブロック2%含む
- 2: 10YR3/3 暗褐 締まり・粘性やや有 1~2mmローム粒中量含む
- 3: 10YR2/2 黒褐 締まり・粘性やや有 1~2mmローム粒少量、炭化材(最大5mm角)多量、3~10mmロームブロック3%含む

SK-208



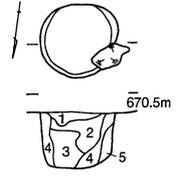
- 1: 10YR2/2 黒褐 締まり・粘性やや有 1~2mmローム粒中量、炭粒少量含む
- 2: 10YR2/2 黒褐 締まり・粘性やや有 1~2mmローム粒中量、炭粒少量、3~5mmロームブロック2%含む
- 3: 10YR3/4 暗褐 締まり弱、粘性やや有 1~2mmローム粒中量、3~5mmロームブロック5%含む
- 4: 10YR2/1 黒 締まり弱、粘性有 1mmローム粒少量含む
- 5: 10YR4/3 におい黄褐 締まり・粘性やや有 1~2mmローム粒中量含む
- 6: 10YR4/6 褐 ブロック状のローム層土
- 7: 10YR3/2 黒褐 締まり弱、粘性有 1~2mmローム粒中量、3~10mmロームブロック5%含む
- 8: 10YR4/3 におい黄褐 締まり無、粘性有 ローム層土の流れ込み土

SK-209



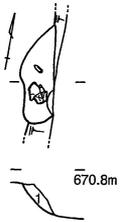
- 1: 10YR3/2 黒褐 締まり弱、粘性やや有 1mmローム粒・炭粒少量含む
- 2: 10YR4/2 灰黄褐 締まり有、粘性やや有 1~2mmローム粒少量含む

SK-210



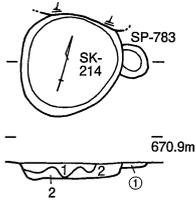
- 1: 10YR3/2 黒褐 締まり有、粘性やや有 1mmローム粒少量含む
- 2: 10YR4/3 におい黄褐 締まり有、粘性やや有 1~2mmローム粒少量含む
- 3: 10YR2/2 黒褐 締まり・粘性やや有 1mmローム粒中量、炭粒少量含む
- 4: 10YR4/3 におい黄褐 締まり・粘性有 1mmローム粒・炭粒少量含む
- 5: 10YR4/2 灰黄褐 締まり有、粘性やや有 1~2mmローム粒少量含む

SK-211



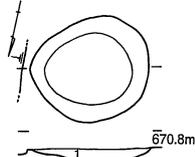
- 1: 10YR3/2 黒褐 締まりやや有、粘性弱 1~2mmローム粒・炭粒少量含む

SK-214



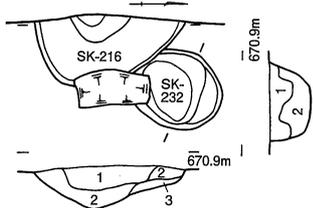
- 1: 10YR3/2 黒褐 締まり・粘性弱 1~2mmローム粒少量含む
- 2: 10YR3/3 暗褐 締まり・粘性弱 1~2mmローム粒・5mm迄の小石少量含む
- ①: 10YR3/3 暗褐 締まりやや有、粘性弱 1mmローム粒少量・10mm迄の小石少量含む

SK-215



- 1: 10YR3/3 暗褐 締まりやや有、粘性弱 1mmローム粒少量、3~10mmロームブロック3%含む

SK-216・232



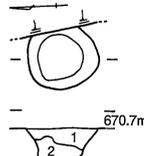
[SK-216]

- 1: 10YR2/2 黒褐 締まりやや有、粘性無 1~2mmローム粒・炭化材(最大5×20mm)少量含む
- 2: 10YR2/3 黒褐 締まり有、粘性やや有 1~2mmローム粒・炭粒少量、3~15mmロームブロック5%含む
- 3: 10YR3/3 暗褐 締まり弱、粘性やや有 1~2mmローム粒少量、5~50mmロームブロック15%含む

[SK-232]

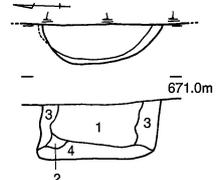
- 1: 10YR3/2 黒褐 締まり有、粘性やや有 1mmローム粒・炭化材(最大5×15mm)少量、3~5mmロームブロック1%含む
- 2: 10YR3/4 暗褐 締まり・粘性やや有 炭化材(最大5mm角)少量、3mmロームブロック1%含む

SK-213



- 1: 10YR3/3 暗褐 締まりやや有、粘性弱 1~2mmローム粒少量含む
- 2: 10YR3/2 黒褐 締まり・粘性やや有 1~2mmローム粒少量含む

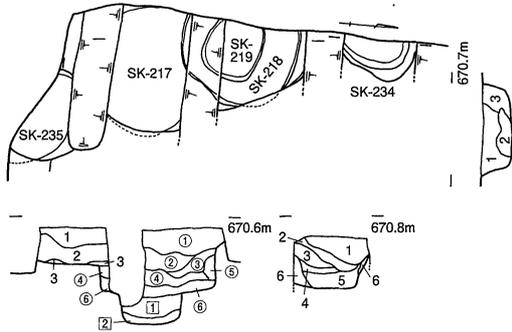
SK-220



- 1: 10YR2/2 黒褐 締まり・粘性やや有 1mmローム粒・炭粒・5mm迄の小石少量含む
- 2: 10YR3/1 黒褐 締まり有・粘性やや有 1mmローム粒少量含む
- 3: 10YR4/3 におい黄褐 締まり弱、粘性やや有 ローム層土の流れ込み土 20~30mmの黒褐色土ブロック15%含む
- 4: 10YR2/1 黒 締まりやや有・粘性有 1mmローム粒・炭粒少量含む

第4図 遺構図(1)

SK-217・218・219・234・235



- 1: 10YR3/2 黒褐 締まり・粘性やや有 1mmローム粒・炭化材(最大5mm角)少量、3~5mmロームブロック1%含む
- 2: 10YR2/2 黒褐 締まり・粘性やや有 1~2mmローム粒少量、3~10mmロームブロック2%含む
- 3: 10YR4/3 におい黄褐 締まり有、粘性やや有 1~2mmローム粒中量、3~10mmロームブロック10%含む
- ①: 10YR3/4 暗褐 締まり・粘性やや有 1mmローム粒少量、3~15mmロームブロック5%含む
- ②: 10YR3/2 黒褐 締まり弱、粘性やや有 1~2mmローム粒・炭粒少量含む
- ③: 10YR3/3 暗褐 締まり弱、粘性やや有 1mmローム粒少量含む
- ④: 10YR3/3 暗褐 締まり弱、粘性有 1~2mmローム粒中量、3~25mmロームブロック10%含む
- ⑤: 10YR3/2 黒褐 締まり・粘性やや有 1mmローム粒少量、3~5mmロームブロック1%含む
- ⑥: 10YR2/2 黒褐 締まり有、粘性やや有 1mmローム粒・炭粒少量含む
- ⑪: 10YR3/2 黒褐 締まり・粘性弱 1mmローム粒少量含む
- ⑫: 10YR4/4 褐 締まり弱、粘性有 ローム層士の流れ込み土

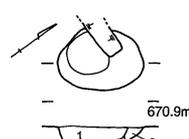
[SK-234]

- 1: 10YR3/3 暗褐 締まり・粘性やや有
- 2: 10YR2/2 黒褐 締まり・粘性やや有 1mmローム粒・炭粒少量、3~5mm暗褐色土ブロック3%含む
- 3: 10YR4/2 灰黄褐 締まり・粘性やや有 1~2mmローム粒少量、3~10mmロームブロック5%含む

[SK-235]

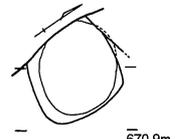
- 1: 10YR3/3 暗褐 締まりやや有、粘性弱 1~2mmローム粒・炭粒少量含む
- 2: 10YR2/2 黒褐 締まり・粘性やや有 1mmローム粒少量含む
- 3: 10YR3/3 暗褐 締まり・粘性やや有 1mmローム粒少量含む
- 4: 10YR3/2 黒褐 締まり・粘性やや有 1~2mmローム粒少量含む
- 5: 10YR4/2 灰黄褐 締まり有、粘性やや有 1mmローム粒少量、3~10mmロームブロック1%含む
- 6: 10YR4/3 におい黄褐 締まり弱、粘性やや有 1~2mmローム粒中量含む

SK-221



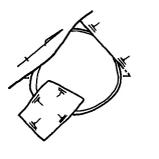
- 1: 10YR3/2 黒褐 締まりやや有、粘性弱 3~5mmロームブロック1%、3~5mm小石少量含む
- 2: 10YR2/3 黒褐 締まり・粘性やや有 1mmローム粒・5mm迄の小石・炭化材(最大5mm角)少量含む
- 3: 10YR4/2 灰黄褐 締まり・粘性やや有 1mmローム粒少量、15mm前後のロームブロック15%含む

SK-222



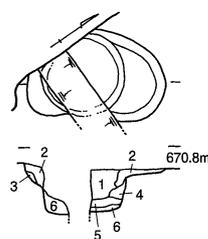
- 1: 10YR3/2 黒褐 締まりやや有、粘性弱 1~2mmローム粒・5mm前後小石少量含む
- 2: 10YR3/3 暗褐 締まり・粘性やや有 1mmローム粒・炭化材(最大10×20mm)少量、3~10mmロームブロック3%含む
- 3: 10YR2/3 黒褐 締まり有、粘性やや有 1mmローム粒少量含む
- 4: 10YR2/2 黒褐 締まり強、粘性有 炭粒少量含む

SK-223



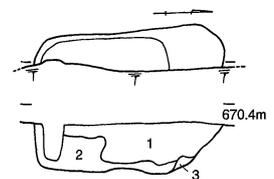
- 1: 10YR2/2 黒褐 締まり弱、粘性やや有 1~2mmローム粒少量含む
- 2: 10YR3/3 暗褐 締まり・粘性やや有 1~2mmローム粒・炭粒少量含む
- 3: 10YR3/3 暗褐 締まり・粘性やや有 1~2mmローム粒・炭粒少量、20~30mmのにおい黄褐色土ブロック5%含む

SK-224



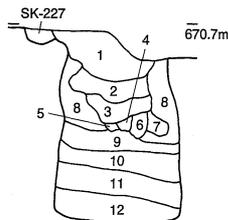
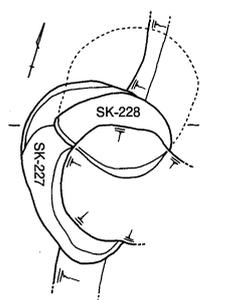
- 1: 10YR2/2 黒褐 締まり・粘性弱 1mmローム粒少量含む
- 2: 10YR4/3 におい黄褐 締まり弱、粘性やや有 10~50mmの黒褐色土ブロック20%含む
- 3: 10YR4/3 におい黄褐 締まり弱、粘性やや有 1~2mmローム粒少量含む
- 4: 10YR4/4 褐 ブロック状のローム層士
- 5: 10YR2/1 黒 締まり・粘性弱 1mmローム粒少量含む
- 6: 10YR3/1 黒褐 締まり・粘性やや有 1mmローム粒・炭粒少量含む

SK-225



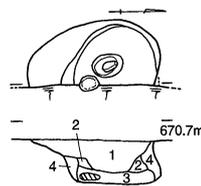
- 1: 10YR2/1 黒 締まり・粘性やや有
- 2: 10YR2/2 黒褐 締まり・粘性やや有 1mmローム粒少量含む
- 3: 10YR3/3 暗褐 締まり弱、粘性やや有 1~2mmローム粒中量含む

SK-227・228



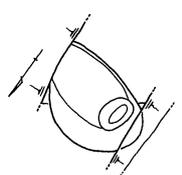
- 1: 10YR2/3 黒褐 締まり・粘性やや有 1~2mmローム粒中量含む
- 2: 10YR2/2 黒褐 締まり・粘性やや有 1~2mmローム粒中量、炭化材(最大5×10mm)少量含む
- 3: 10YR2/3 黒褐 締まり弱、粘性やや有 1~2mmローム粒中量、炭化材(最大5mm角)少量、3~5mmロームブロック2%含む
- 4: 10YR2/2 黒褐 締まり・粘性やや有 1~2mmローム粒少量含む
- 5: 10YR2/1 黒 締まり・粘性弱 3~5mmロームブロック1%含む
- 6: 10YR3/3 暗褐 締まり弱、粘性やや有 1mmローム粒中量、10~30mmの黒褐色土ブロック20%含む
- 7: 10YR4/4 褐 ブロック状のローム層士
- 8: 10YR3/3 暗褐 締まり弱、粘性やや有 1~2mmローム粒中量、3~10mmロームブロック3%含む
- 9: 10YR4/4 褐 ブロック状のローム層士
- 10: 10YR2/3 黒褐 締まり弱、粘性やや有 1~2mmローム粒中量、炭化材(最大5mm角)少量、3~5mmロームブロック1%含む
- 11: 10YR4/3 におい黄褐 締まり弱、粘性有 ローム層士の流れ込み土層
- 12: 10YR2/3 黒褐 締まり弱、粘性有 1~2mmローム粒中量、炭化材(最大5×10mm)少量、3~10mmロームブロック5%含む

SK-226



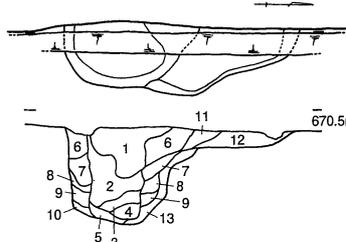
- 1: 10YR3/2 黒褐 締まり・粘性やや有 1~2mmローム粒・炭化材(最大5mm角)少量、3~5mmロームブロック2%含む
- 2: 10YR3/3 暗褐 締まり・粘性有 1~2mmローム粒少量含む
- 3: 10YR2/2 黒褐 締まり・粘性やや有 1~2mmローム粒・炭化材(最大5mm角)少量含む
- 4: 10YR4/3 におい黄褐 締まり弱、粘性やや有 1~2mmローム粒中量、炭粒少量、3~5mmロームブロック3%含む

SK-229



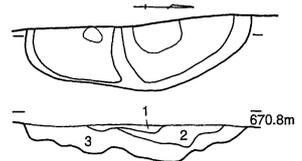
- 1: 10YR3/3 暗褐 締まり・粘性やや有 1mmローム粒少量含む
- 2: 10YR3/2 黒褐 締まり弱、粘性やや有 1mmローム粒少量、3~5mmロームブロック1%含む
- 3: 10YR4/6 褐 ローム層士
- 4: 10YR4/2 灰黄褐 締まり有、粘性やや有 1mmローム粒少量含む
- 5: 10YR4/3 におい黄褐 締まり弱、粘性やや有 1mmローム粒少量含む

SK-230



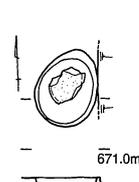
- 1: 10YR3/2 黒褐 締まり・粘性やや有 1mmローム粒・炭粒少量含む
- 2: 10YR3/3 暗褐 締まり弱、粘性やや有 1mmローム粒・炭粒少量、5~10mmロームブロック3%含む
- 3: 10YR3/2 黒褐 締まり弱、粘性有 1~2mmローム粒中量、炭粒少量含む
- 4: 10YR3/4 暗褐 締まり弱、粘性有 1~2mmローム粒中量、5~10mmロームブロック3%含む
- 5: 10YR4/2 灰黄褐 締まり弱、粘性有 1mmローム粒少量含む
- 6: 10YR4/3 におい黄褐 締まり・粘性やや有 1~2mmローム粒少量、5~20mmロームブロック3%、5~20mm黒褐色土ブロック3%含む
- 7: 10YR4/4 褐 締まり・粘性やや有 ローム層士
- 8: 10YR4/3 におい黄褐 締まり・粘性やや有 1mmローム粒少量、5~20mmロームブロック5%含む
- 9: 10YR4/4 褐 締まり・粘性やや有 ローム層士
- 10: 10YR4/3 におい黄褐 締まり・粘性やや有 1~2mmローム粒少量、5~20mmロームブロック3%、5~20mm黒褐色土ブロック3%含む
- 11: 10YR3/3 暗褐 締まり有、粘性弱
- 12: 10YR4/2 灰黄褐 締まりやや有、粘性弱 1mmローム粒少量、3~15mmロームブロック7%含む
- 13: 10YR4/3 におい黄褐 締まり弱、粘性やや有 1mmローム粒少量含む

SK-233



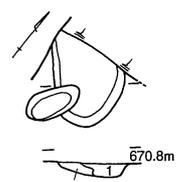
- 1: 10YR3/3 暗褐 締まり・粘性やや有 1mmローム粒少量含む
- 2: 10YR2/2 黒褐 締まり・粘性やや有 1mmローム粒少量含む
- 3: 10YR3/4 暗褐 締まり・粘性やや有 1~2mmローム粒中量、3~10mmロームブロック1%含む

SK-231



- 1: 10YR4/3 におい黄褐 締まり・粘性やや有

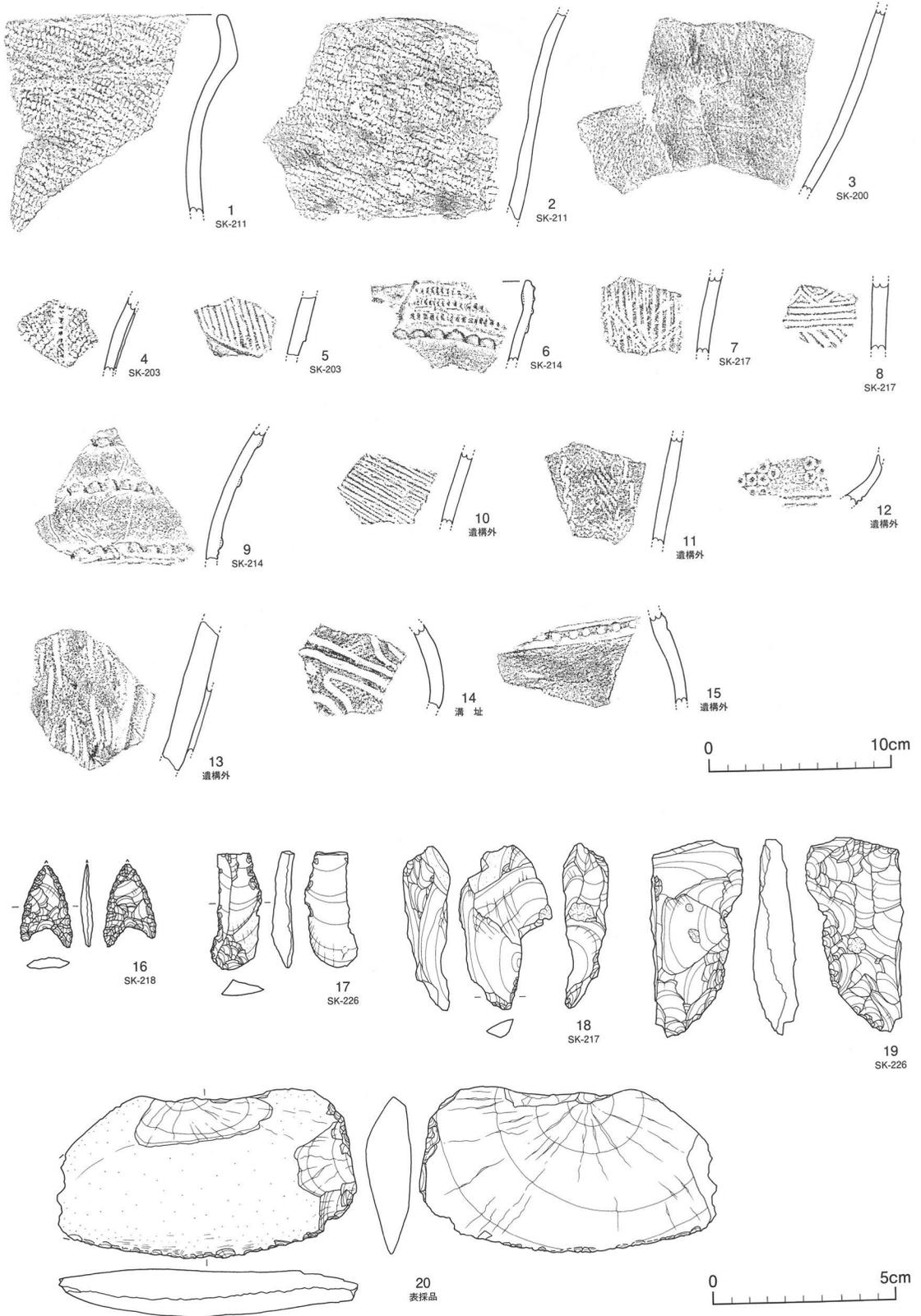
SK-236



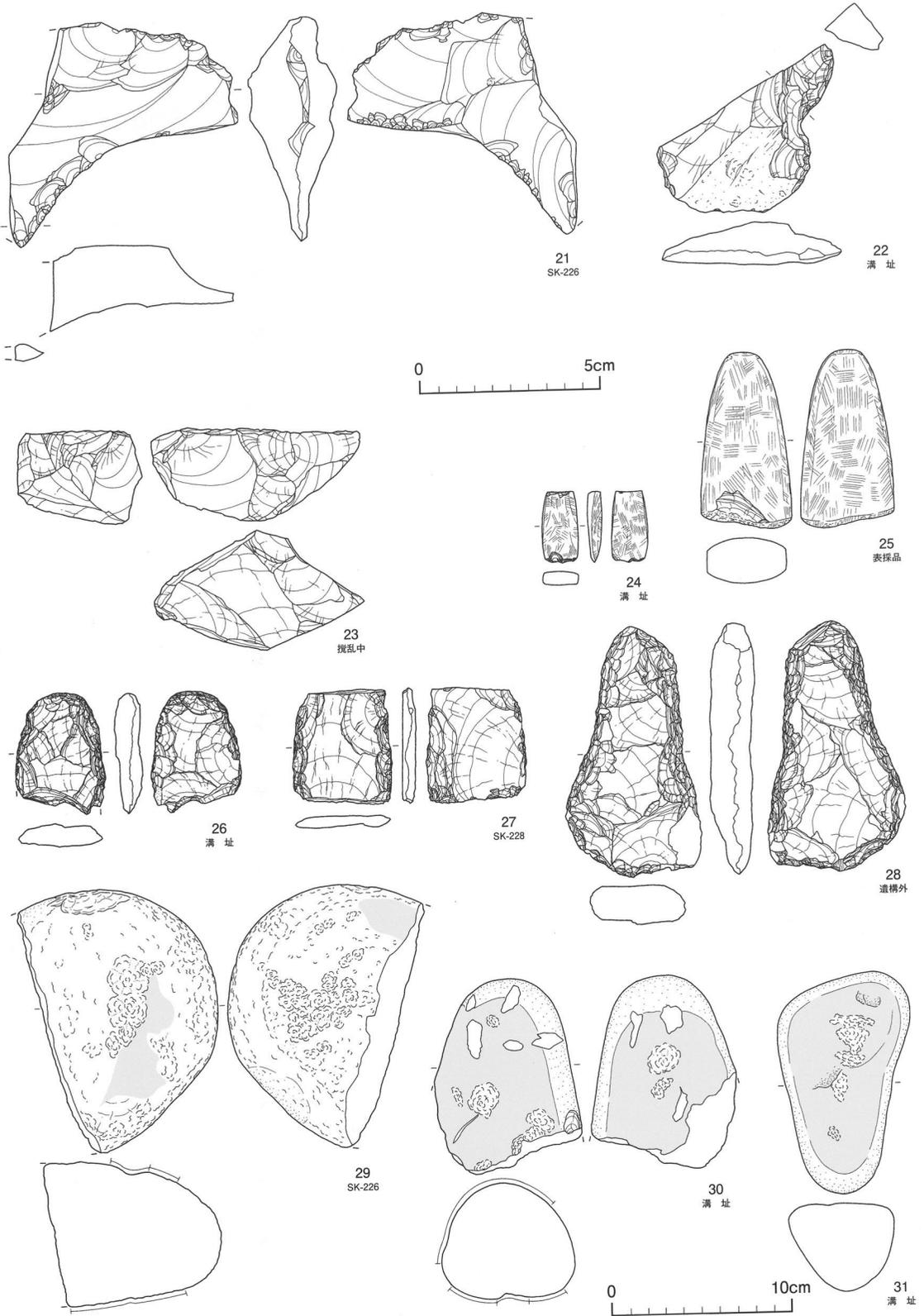
- 1: 10YR3/3 暗褐 締まり・粘性やや有 1mmローム粒少量含む
- 2: 10YR4/3 におい黄褐 締まり弱、粘性やや有 1~2mmローム粒中量、3~15mmロームブロック5%含む



第5図 遺構図(2)



第6図 出土遺物 (1)



第7図 出土遺物(2)

させた後、木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の3断面の割断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類を同定する。結果を第1表に示す。土坑4基から出土した炭化材からは、広葉樹のクリ、エノキ属、カツラが認められた。このうち、エノキ属は、自然堤防上等に生育する落葉高木であり、木材はやや重硬な部類に入る。カツラは、河畔林等の適湿地に生育する落葉高木であり、木理が通直で割裂性が高く、加工は容易である。クリは、二次林等に生育する落葉高木であり、木材は重硬で強度・耐朽性が高いという材質を有

第1表 樹種同定結果

試料No.	遺構名	層位	時代	形状	樹種
1	SK-200	フク土	縄文時代前期末	破片	エノキ属
2				破片	エノキ属
3				破片	エノキ属
4				破片	カツラ
5				破片	カツラ
6	SK-207	1層	縄文時代前期末	破片	クリ
7				破片	クリ
8				破片	クリ
9				破片	クリ
10	SK-208	フク土	縄文時代前期末	破片	クリ
11	SK-232	1層	縄文時代前期末	破片	クリ
12				破片	クリ
13				破片	クリ
14				破片	クリ

する。これらの樹木は、いずれも現在の本地域に見られる種類であり、周辺の河畔等の沖積地から山地にかけて生育していたと考えられる。各土坑で認められた分類群をみると、SK-200はエノキ属とカツラの2種類からなる一方、SK-207・208・232はクリのみであった。とくに、SK-207・232は複数の炭化材を調査対象とした結果であることを考慮すると、クリ単独の組成であった可能性がある。

(2) 炭化材年代測定

試料は、貯蔵穴と推定される2基の土坑（SK-200・208）覆土から出土した炭化材2点である。なお、これらの炭化材は、樹種同定の結果、SK-200炭化材（試料No.4）はカツラ（*Cercidiphyllum japonicum* Sieb. et Zucc.）、SK-208炭化材（試料No.10）はクリ（*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.）であることが確認されている。測定結果（補正年代）は、SK-200炭化材は $4,610 \pm 40$ yrBP、SK-208炭化材は $2,980 \pm 40$ yrBPを示す。また、これらの補正年代に基づく暦年較正結果（ σ ）は、それぞれ、calBP5,447-calBP5,301、calBP3,240-calBP3,080である。これらの暦年代は、谷口康浩（2001、縄文時代の年代、季刊考古学、77、17-21.）や、小林謙一（2008、縄文土器の年代（東日本）、小林達雄編 小林達雄先生古希記念企画 総覧 縄文土器、株式会社アム・プロモーション、896-903.）等を参考とすると、SK-200は縄文時代中期の初め頃、SK-208は縄文時代後期の終わりから晩期の初め頃と推定される。SK-200については発掘調査所見で示された年代の範囲内にあるが、SK-208で示された年代は発掘調査所見よりも新しい。炭化材が出土した土坑は、貯蔵穴の可能性が指摘されており、いわゆる燃料材等の利用等は考え難いことから、炭化材の出土状況や履歴等を含めた検討が必要である。

IV まとめ

今回の発掘調査区には様々な攪乱が予想以上に及んでいたが、土坑・ピットをあわせて72基検出することができた。これら遺構の検証と、遺跡をめぐる課題を記しまとめとしたい。

当遺跡は東西800m、南北400m程の範囲が遺跡として線引きされているが、一様に同時期の遺物が同密度に拾える状況にない。今回見つかった前期末～中期初頭の遺構・遺物は、本調査区を含めた西側及び南側の範囲からのみ見つかっており、集落はまずこの付近に設けられたと見られる。今回検出された土坑は、貯蔵穴と言われる断面が袋状を呈するものが多く、隣接する第IV次調査第1・13トレンチでも同様な状況であったことから、この周辺は貯蔵穴群といった様相を呈する。集落構造を追えるだけの事例は蓄積されていない

第2表 土坑一覧表

遺構No	所在グリッド	規模 (cm)			平面形状	断面形状	切り合い関係	出土遺物
		長径	短径	深さ				
SK-200	N7E2	102	86	36	円形	袋状		土器片4点 (時期不明 第6図3他)、砂岩礫1点 (82.9g)
SK-201	N18E5	50	48	38	円形	円筒状		
SK-202	N18E2	56	50	20	円形	鍋底状		
SK-203	N4E5	102	94	27	円形	袋状	>溝址、<SP-782	土器片10点余 (前期末 第6図4・5他)
SK-204	N5E3	75	74	8	円形	皿状	>溝址	
SK-205	N20E3	82	72	4	不整形	皿状		
SK-206	N22E5	46	42	38	不整形	円筒状		
SK-207	N26E3	72	70	24	円形	袋状		土器片1点 (時期不明)
SK-208	N34E3	90	89	56	円形	袋状		土器片4点 (前期末~中期初頭)、砂岩片1点 (51.2g)
SK-209	N18E0	86	60	18	不整形	不整形		
SK-210	N30E3	61	59	44	円形	円筒状		土器片4点 (前期末~中期初頭)
SK-211	N23E1			16	不整形			土器片10点余 (前期末? 第6図1・2他 出土破片すべて同一個体か?)、被熱した棒状の砂岩礫1点 (190.0g)
SK-212	N33E6	93	89	45	不整形	袋状		
SK-213	N16E6	55		26	円形	播鉢状		土器片3点 (前期末?)
SK-214	N20E0	82	80	14	円形	皿状	<SP-783	土器片10点余 (前期末 第6図6・9他)
SK-215	N38E0	94	84	11	不整形	皿状		
SK-216	N30W0		116	29		不整形	<SK-232	土器片10点余 (前期末)
SK-217	N2E0			36		袋状	<SK-218	土器片20点余 (前期末 第6図7・8他)、石錐1点 (第6図18)、黒曜石剥片1点 (0.9g)、砂岩片2点 (685g、177.1g) 他
SK-218	N3E0			51		袋状	>SK-217、<SK-219	土器片2点 (前期末)、石礫1点 (第6図16)、粘板岩片1点 (2.3g)
SK-219	N3E0		45	28	円形	鍋底状	>SK-218	
SK-220	N8E6		90	46		円筒状		土器片1点 (時期不明)
SK-221	N22E0	68	55	24	楕円形	播鉢状		土器片1点 (時期不明)
SK-222	N25E0	70		43	不整形	円筒状		土器片3点 (前期末)
SK-223	N24E0	70	67	17	円形	皿状		
SK-224	N7E0	107	70	35	不整形	二段状		
SK-225	N83E5	145		37		タライ状		
SK-226	N32E6	103		38		不整形		土器片1点 (前期末)、微細剥離有剥片1点 (第6図17)、石槍未成品? 1点 (第6図19)、石錐1点 (第7図21)、磨石類1点 (第7図29)、砂岩片3点 (177.2g、86.8g、8.5g)、砂岩円礫1点 (150.3g) 他
SK-227	N36E0	142		58		不整形	>SK-228	
SK-228	N37E0	86	68	133	楕円形	袋状	<SK-227	土器片7点 (前期末)、打製石斧1点 (第7図27)、被熱泥岩片1点 (7.9g)
SK-229	N39E5	91	62	39	楕円形	不整形		
SK-230	N81W1	175		76	不整形	二段状		
SK-231	N57E0	62	47	16	楕円形	タライ状		花崗岩礫1点 (約10kg)
SK-232	N30E0	66	63	36	不整形	鍋底状	>SK-216	土器片1点 (前期末)
SK-233	N36W0	170		26	長楕円形	不整形		
SK-234	N2E1		75	25		鍋底状		砂岩片1点 (493g)
SK-235	N4E0			30		円筒状		土器片3点 (前期末~中期初頭)
SK-236	N27E0		60	9		皿状	>SP-754	
SK-237	N52W0		59	8		二段状		土器片1点 (時期不明)

切り合い関係欄 <: 切る、>: 切られる、=: 不明

第3表 ピット一覧表

遺構No	所在グリッド	規模 (cm)			切り合い関係	出土遺物
		長径	短径	深さ		
SP-750	N27E2	43	43	9		
SP-751	N29E2	23	22	15		
SP-752	N18E6	44	37	6		
SP-753	N21E6	39	38	17	=SP-757	
SP-754	N26E0	43	23	10	<SK-236	
SP-755	N11E0	50		8		
SP-756	N11E0	25	22	7		
SP-757	N21E6	21	11	11	=SP-753	
SP-758	N16E6	34	27	9		
SP-759	N56E2		24	14		
SP-760	N81E4	40	31	17		
SP-761	N82E3	25	22	7		
SP-762	N72E4		28	15		
SP-763	N27E0	40	38	15		土器片1点 (時期不明)
SP-764	N50W0	58		12	=SP-774	土器片2点 (中期末)
SP-765	N46E0	37	24	42		
SP-766	N79W0	38	33	34		
SP-767	N82W1		37	11		
SP-768	N20E0	39	36	38		
SP-769	N19E0	31	31	13		
SP-770	N19E1	27	23	28		
SP-771	N52E0	51		14		
SP-772	N38E5	36	30	17		
SP-773	N23E0	52	43	18		
SP-774	N50W0	56		19	=SP-764	土器片5点 (時期不明)、チャート剥片1点 (4.0g)
SP-775	N43E5	52	52	27		
SP-776	N34E0	32	31	23		
SP-777	N32W0	35	33	28		
SP-778	N67E2			21		
SP-779	N63W0			9		
SP-780	N65W0			14		土器片1点 (時期不明)
SP-781	N62E5	27	26	13		
SP-782	N5E5		32	17	>SK-203	
SP-783	N21E0		26	5	>SK-214	

切り合い関係欄 <: 切る、>: 切られる、=: 不明

第4表 図化土器観察表

報文 図No	出土位置	残存部位	調整及び文様	外面色調/胎土/焼成	備 考
1	SK-211フク土	口縁部~胴部上半	外：単節RL縄文 内：ヨコ方向へのナデ	7.5YR6/4 におい橙/粗/良好	No1・2は同一個体か？
2	SK-211フク土	胴部上半	外：単節RL縄文 内：ヨコ方向へのナデ	7.5YR6/4 におい橙/粗/良好	
3	SK-200フク土	胴部	外：無文 板状工具によるヨコ方向へのナデ 内：ヨコ方向へのナデ	7.5YR6/6 橙/粗/やや良好	
4	SK-203フク土	胴部	外：単節LR縄文地に垂下する結節浮線文 内：ヨコ方向へのナデ	2.5Y3/1 黒/やや粗/やや良好	外面煤化著しい
5	SK-203フク土	胴部	外：楕円状区画内を集合斜沈線文で充填 文様空白部は器面 の削りとり 内：ヨコ方向へのナデ	7.5YR5/3 におい褐/やや粗/やや 良好	
6	SK-214フク土	口縁部	外：指頭圧痕を有す隆帯で口縁部文様態を画し、結節浮線文 が3条横走する 内：ヨコ方向へのナデ	7.5YR6/4 におい橙/やや粗/良好	No6・9は同一個体か？
7	SK-217フク土	胴部	外：縦位集合沈線文に半裁竹管によるV字状沈線文 内：ヨコ方向へのナデ	10YR5/3 におい黄褐/やや粗/良好	
8	SK-217フク土	胴部	外：半裁竹管による幾何学文様のな沈線文 内：ヨコ方向へのナデ	7.5YR5/4 におい褐/粗/やや良好	
9	SK-214フク土	胴部上半	外：指頭圧痕を有す横走隆帯3条を間隔を空けて配す 内：ヨコ方向へのナデ	7.5YR5/3 におい褐/やや粗/良好	
10	遺構外（表土除去中出土）	胴部	外：斜行集合沈線文 内：ヨコ方向へのナデ	7.5YR5/4 におい褐/やや密/良好	
11	遺構外（表土除去中出土）	胴部下半	外：結束縄文 内：ヨコ方向へのナデ	7.5YR6/4 におい橙/やや粗/良好	
12	遺構外（カクラン土中）	頸部	外：円形刺突文（竹管状工具）を連続して施文 頸部に横走 沈線文 貼付文のはがれあり 内：ヨコ方向へのナデ	7.5YR5/3 におい褐/やや密/良好	
13	遺構外（遺構検出作業時出土）	胴部下半	外：垂下隆帯 ぐずれた菱形状の短沈線文 内：ヨコ方向へのナデ	10YR6/4 におい橙/やや密/やや良 好	
14	溝址フク土	胴部上半	外：単節LR縄文に沈線文と円形刺突文（棒状工具） 内：ヨコ方向へのナデ	7.5YR6/4 におい橙/やや粗/良好	
15	遺構外（遺構検出作業時出土）	胴部上半	外：沈線文間に連続する円形刺突文（棒状工具） 内：頸部はヨコ方向へのミガキ それ以下はヨコ方向へのナ デ	10YR5/3 におい黄褐/やや粗/良好	

第5表 図化石器観察表

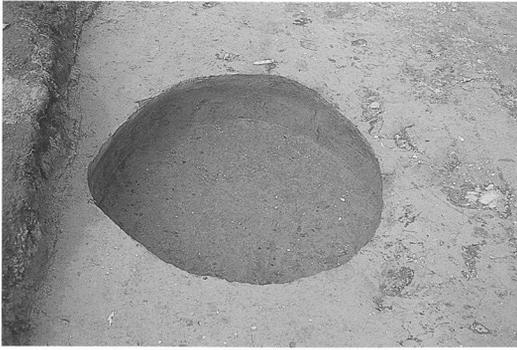
報文 図No	出土位置	器 種	石 材	欠損状態	法 量 (cm, g)				整理作業時No	備 考
					長 さ	幅	厚 さ	重 さ		
16	SK-218フク土	石鏃	黒曜石	先端僅かに欠	(2.3)	1.3	0.3	0.7	2	
17	SK-226フク土	微細剥離有剥片	黒曜石		3.3	1.4	0.7	2.1	5	
18	SK-217フク土	石鏃	黒曜石	完形	4.6	2.6	1.2	10.9	1	
19	SK-226フク土	石槍未成品？	黒曜石		5.5	2.6	1.2	13.6	4	
20	表探品	擦り切り石器？	頁岩	完形	4.7	8.3	1.3	63.3	25	
21	SK-226フク土	石鏃？	黒曜石		6.3	6.3	2.5	49.0	6	
22	溝址フク土	石匙？	珪質粘板岩		(4.7)	(5.0)	1.3	21.4	12	
23	遺構外（カクラン土中）	石核	チャート		2.6	5.8	3.4	50.5	14	
24	溝址フク土	小型磨製石斧	泥岩	ほぼ完形	3.9	1.9	0.8	9.9	9	
25	表探品	磨製石斧	硬砂岩	刃部欠	(9.8)	5.0	2.5	241.1	24	敲打具として再利用
26	溝址フク土	打製石斧	頁岩	基部のみ残	(6.7)	4.9	1.4	54.4	10	
27	SK-228フク土	打製石斧	頁岩	基部・刃部先端欠	(6.4)	5.5	0.7	40.1	7	
28	遺構外（表土除去中出土）	打製石斧	頁岩	ほぼ完形	13.9	7.5	2.4	278.3	15	
29	SK-226フク土	磨石類	砂岩	1/3欠	14.6	(10.9)	8.5	1443.4	3	
30	溝址フク土	磨石類	砂岩	1/2欠	(10.8)	(7.3)	6.9	771.1	13	被熱
31	溝址フク土	磨石類	砂岩	完形	12.2	7.1	4.9	509.8	8	

法量欄（長さ・幅・厚さ）の括弧付数値は残存値

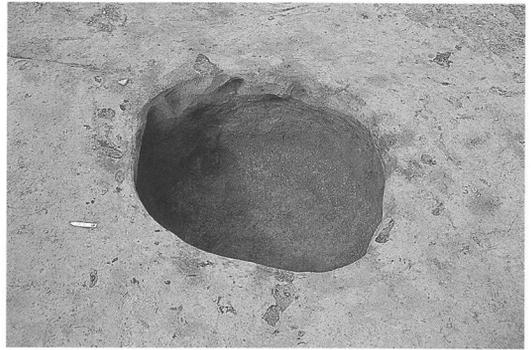
が、堅穴式住居址は本調査区から西へ50m程の位置、第IV次調査の第23トレンチで大型なものを1基検出している。今後調査を行えば、居住域はこちら側から見つかる可能性が考えられる。

また以後、数多くの遺構・遺物が見つかった中期中葉～後葉を迎えて集落は最大の広がりを見せたと思われ、この期も全域で土器が拾える状況になく、北東寄りの旧河川の窪みに沿った範囲に集中している。そして後期は遺跡の北西側に集中する傾向がうかがえる。乱流した唐沢川の流路は、今は平滑化して分からないが幾筋もあったと思われ、状況に応じて適地を選び集落域が移動した可能性が考えられる。そしてこう見ていくと、北隣の下原遺跡、南隣の堀ノ内遺跡、北竹原遺跡を含めての考察が必要で、三夜塚遺跡群と言った捉え方が適切かと思われるが、今後の課題として取り組んでいく必要がある。

最後となりましたが、今回の発掘調査も沿線農家の皆様、炎暑に発掘作業に参加された皆様、その他関係各位の皆様のご理解とご協力のもと、調査報告書の刊行にまで至ることができました。ここに深く感謝の意を表し、松本平最大規模の縄文中期遺跡とも言われた三夜塚遺跡が、地域の文化財としてより一層大切にされていくことを切に希望し、本書の結びとします。



SK-200完掘 (南から)



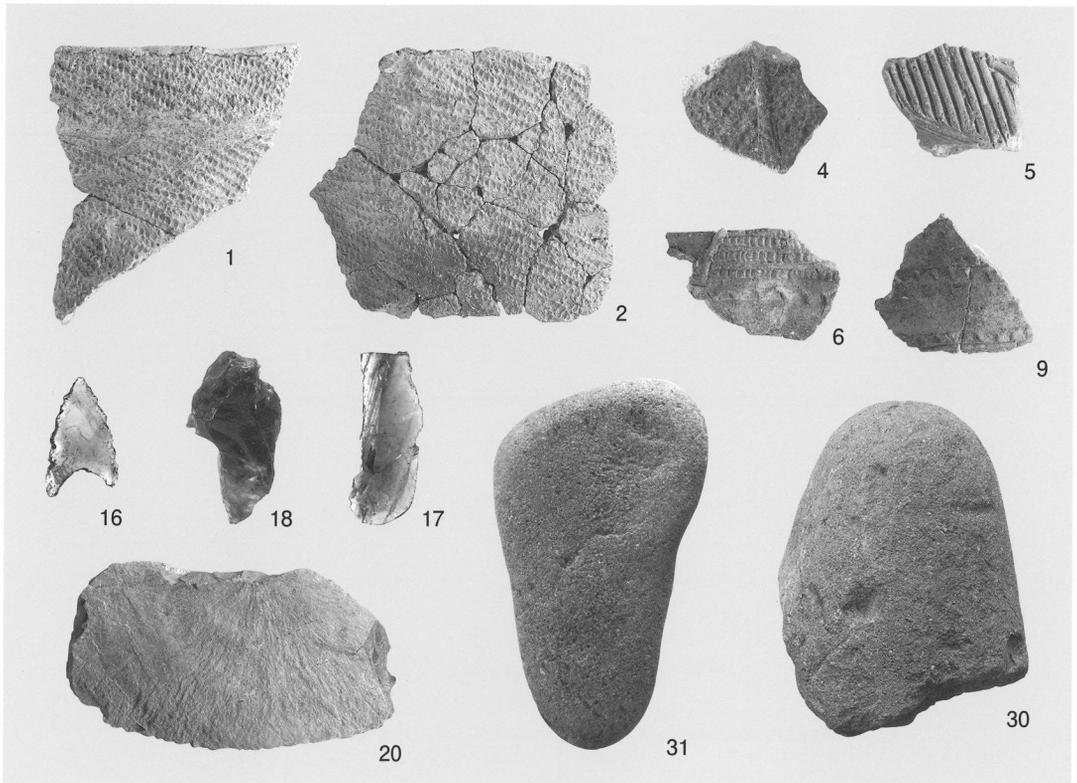
SK-208完掘 (南から)



SK-228完掘 (南から)



SK-231花崗岩出土状況 (南東から)



出土遺物

報告書抄録

ふりがな	さんやづかいせき5								
書名	三夜塚遺跡V								
副書名	地方特定道路整備工事（村道北6号線）に伴う記録保存								
巻次									
シリーズ名	山形村遺跡発掘調査報告書								
シリーズ番号	第18集								
編著者名	和田 和哉								
編集機関	山形村教育委員会								
所在地	〒390-1301 長野県東筑摩郡山形村2040-1 TEL 0263-98-3155 FAX 0263-98-4256								
発行年月日	2010年3月25日								
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因	
		市町村	遺跡番号						
三夜塚	長野県東筑摩郡山形村6402-4他	204501	28	36° 11′ 13″	137° 53′ 01″	2008. 8. 25 ～ 2008. 9. 17	681.5㎡	地方特定道路整備工事（村道北6号線）に伴う緊急発掘調査	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項		
三夜塚	集落跡	縄文	土坑 ピット	38 34	縄文時代前期末～中期初頭の土器・石器			縄文時代前期末～中期初頭の遺構の他、明治17年の竹田開田計画に伴う堰址を検出した。	

三 夜 塚 遺 跡 V

—地方特定道路整備工事（村道北6号線）に伴う記録保存—

平成22年3月25日 発行

編集・発行 山形村教育委員会
印刷 カシヨ株式会社
